平成 25 年

9 月の普及活動状況

ダイジェスト版

～県下 10 農林事務所農業普及課と農業革新支援センターの取組～

岐阜県農政部農業経営課

平成２５年９月の普及活動状況ダイジェスト版

活力ある新産地づくり

郡上農林■夏秋イチゴ・ダイコン　夏の高原でイチゴ、ダイコンをＰＲ

郡上農林事務所主催のウォーキングイベントが、8 月 31 日に郡上市高鷲町を舞台に開催された。親子連れなど約 180 人が標高 900mに広がるのどかな農村風景を楽しみながら開拓にまつわる魅力に触れた。

農業普及課では、各チェックポイントで「イチゴの花は何色」や「ダイコンを夏の暑さから守る方法は」などのクイズ、赤く熟したイチゴや掘りたてのダイコンの試食を実施して、イベントを盛り上げるとともに、地域農業のＰＲを行った。

【クイズに答える参加者】

秋季にはイベントが多くなることから、農業普及課では、引き続き積極的に消費者向けのＰＲ活動を行っていく。

東濃農林■ブロッコリー　日吉機械化営農組合で試作開始

瑞浪市の「(農)日吉機械化営農組合」では、経営補完品目の一つとしてブロッコリーの試作に取り組んでいる。本年は耕作放棄地約７ａに約 2,500 株を定植し、現在順調に生育している。

当営農組合では、米価が低迷する中、経営の柱である水稲及び水稲作業受託、大豆を補完する品目として、これまで自然薯、タラの芽等に取り組んできたが、まだ経営を支える品目にまで成長していない。

【ブロッコリーの生育状況】

このような中、組合長は、懸案の後継者育成に向け緊急雇用創出事業を活用して若者を雇用したため、雇用に対する責任を果たす必要があると考えている。また、ＴＰＰ等農業情勢の不透明感から、土地利用型作物への補助金等の助成に依存しない経営を目指したいと考えている。

農業普及課では、こうした状況をふまえ、年間の労働時間の平準化、特に冬期の収益力向上が不可欠と考え、ブロッコリーの導入を提案し、試験的に栽培する運びとなった。ブロッコリー栽培では、水稲の収穫時期に防除等管理作業が必要となる課題もあるが、作付体系の検討と最小作業の確実な実施により、組合の安定経営に資する品目となるよう、今後とも継続して支援していく。

恵那農林■クリ　ぽろたん焼き栗等のＰＲ販売－ＥＮＡみのじのみのり祭にて－

管内のクリ栽培農家及び支援機関で構成する東美濃ぽろたん研究会（事務局：恵那農林事務所農業普及課）では、９月 22 日に開かれたＥＮＡみのじのみのり祭において、「ぽろたん」のＰＲ販売を行った。

当日は、‘大きくて渋皮がポロっとむける’特性を活かし、３Ｌ以上の特大サイズは、手間が少なく食べやすい「焼き栗」で販売したほか、「生栗」にレシピ集を付けての販売も行った。

【焼き栗販売の様子】

この日を待ちわびていた来場客や、これまで見たことのない不思議なクリに驚く来場客もあり、用意した 50kg のぽろたんは好評のうちに完売した。

今回は、約 2,100 円/kg での高値販売ができ、栽培農家のぽろたんに対する期待が高まった。

研究会では、今年約 1.2t のぽろたんの出荷を見込んでおり、今後、ＪＡを通じた地域内外の菓子･料理業者等への生栗販売や、各地でのイベント(「中津川ふるさとじまん祭(10/25～27)」、「岐阜県農業フェスティバル(10/26～27)」、「ひがしみの農業祭(11/10)」）におい

て焼き栗・生栗販売を予定している。農業普及課では、今後もこれらのＰＲ販売に向けた取り組みを支援していく。

飛騨農林■宿儺かぼちゃ　「宿儺かぼちゃ収穫体験」を支援

【イベント時の集合写真】

9月8日（日）、飛騨高山宿儺かぼちゃ食の匠推進協議会は、イオンチアーズの宿儺かぼちゃ収穫体験を実施した。

イオンチアーズとは、イオン各店舗が近隣の小中学生に呼びかけ結成した環境に関する体験をするクラブで、当日はイオン各務原店、木曽川店のチアーズ30人が参加した。

研究会の若林会長のあいさつ、農業普及課からの宿儺かぼちゃの歴史や栽培方法の説明の後、畑で子供たちが元気よくお気に入りのかぼちゃを探し、収穫作業を楽しんだ。

また、午後は同じ日に実施された「宿儺かぼちゃ品評会」の見学も行った。収穫体験の様子は、テレビ局２社が取材に訪れ、宿儺かぼちゃの良いＰＲとなった。

売れる農畜産物づくり

岐阜農林■ブロッコリー　各地で定植作業開始

【定植作業の様子】

8月29日の各務原市を皮切りに、各地でブロッコリーの定植が始まった。農業普及課は、降雨が続いて定植作業が遅れ気味となっていたことから、排水対策を中心に指導した。順調に作業できたほ場についても肥料の流亡や土壌の硬化による生育不良が懸念されたため、追肥や中耕培土の前進化を働きかけている。

西濃農林■下宮青果部会協議会　下宮版ＧＡＰ研修会を開催！！

神戸町の下宮青果部会協議会では、自主ＧＡＰに取り組んでいる。本年は会員全戸を対象に内部検査を行い、検査結果の公表とともに、更なる研鑽のため、8月27日、９月３日の２日間、研修会が開催された。ＧＡＰの取組により、出荷調整場所の整理が進み、異物混入等のクレームは減ったものの、本年は小松菜で例年を上回る出荷物の品質クレーム（トロケ、黄葉）があったため、公開検査等で品質チェックを強化していくこととなった。

農業普及課では、協議会の自主ＧＡＰの取組に対し、内部検査方法やチェックリストの作成などの支援を行っている。

揖斐農林■水稲ハツシモ種子　優良種子生産に向け、ほ場審査を実施

【種子審査員によるほ場審査】

揖斐地域では、大野町米麦採種ほ生産組合が 8.3ha の水田でハツシモの種子を生産している。種子生産のためには、種子審査員（普及指導員）による出穂期と糊熟期の 2 回のほ場審査を受ける必要があり、9 月 3 日に出穂期、9 月 26 日に糊熟期のほ場審査を行った。

ほ場審査では、異品種の混入がないか、種子伝染性の病害がないか、害虫や雑草の発生や生育不良がないかなどを厳しく審査し、信頼性の高い種子生産に向けた指導を行った。

今後は、適期収穫及び乾燥調製に向けて栽培指導を継続し、優良種子生産を推進する。

中濃農林■水稲採種　県下の種子生産を担うほ場審査を実施！

【ほ場審査の様子】

美濃市採種組合及び小瀬採種組合では、ハツシモ、あさひの夢、みのにしき等の種子の生産を行っている。中でも、ハツシモは約 46ha を作付け、県内需要の 1/2 以上を供給している。

農業普及課は、優良種子の生産に向け栽培指導を行い、特にハツシモ及びあさひの夢の原種ほ場については、農業技術センターと共同して重点的に管理･栽培支援を行っている。

８～９月には主要農産物種子法に基づき、出穂期及び糊熟期に全ほ場を巡回し、異品種混入及び雑草、病虫害発生状況、生育状況について厳正な審査を行った。

可茂農林■夏秋なす（美濃加茂）　美濃加茂産なすが量販店で高い評価！

【量販店の見学の様子】

９月 10 日に、ＪＡめぐみの主催で市場視察研修会が開催され、美濃加茂市夏秋なす生産協議会、ＪＡめぐみの、全農岐阜、農業普及課の担当者が、出荷先である名古屋市中央卸売市場を訪問し、市場担当者との意見交換を行った。農業普及課からは、ＪＡめぐみのと生産状況を説明した。

市場担当者からは、美濃加茂産のなすは品質が良いことで量販店から高い評価を得ており、引き続き品質の維持と更なる生産量の拡大に取り組んで欲しい等の要望が出された。会場では、選果方法や生産技術について活発に議論がなされ、農業普及課からは、栽培終盤に向けた栽培管理ポイントの助言等を行った。

市場視察後は美濃加茂産なすの販売先である名古屋市内の量販店を訪問した。目立つところに陳列されるなど、主力商品として扱われる状況を確認するとともに、自分たちが作ったなすが売れていくのを見て、生産者それぞれが今後の生産に意欲を見せていた。

農業経営課■花き　岐阜県オリジナル品目生産への取組み始まる

【内覧会での試作品の紹介】

岐阜県の鉢物生産者で組織する岐阜花き流通センター農協では、県オリジナル品目の育成等、有利販売のための仕組みづくりに取り組んでいる。９月末現在、菊（マム）、ゼラニウム、スパティフィラムの３品目で取り組んでおり、品目ごとに部会を立ち上げ、新品種の試作を行うとともに、定期的に研究会を開催し、栽培状況等の情報交換を行っている。

農業革新支援センターでは、品目ごとに関係する普及指導員、農業技術センター、農産園芸課とも連携し、研究会での指導助言を行うとともに、現地での試作や特性調査等の支援を行っている。９月 27 日に行われた市場や小売りの関係者を対象にした内覧会において、３品目の試作状況の紹介や、アンケートを実施した結果では、関係者の反応は非常に良く、来春の試験販売に期待される。引き続き、県オリジナル品目の育成に向け、栽培技術の確立、販売方法、ＰＲ手法等について積極的な支援を行ってゆく。

多様な担い手の育成・確保

下呂農林■若手農業者ネットワーク　意向アンケートを実施

【若手農業者の意向聞き取り】

８月30日に開催した下呂地区農業後継者交流会において、青年農業士代表から「若手農業者ネットワーク」立ち上げの提言がなされ、出席者の賛同を得た。これを受け農業普及課では、ネットワーク構築に向けて、若手農業者の意向や連絡環境の現状を把握するためのアンケート調査を行った。

アンケートの結果、多くの若手農業業者がネットワーク加入に前向きであり、活動にも期待を寄せていることがわかった。

今後は、今回の調査でまとめた若手農業者の意向に従ってネットワークの構築を進めていく。